

11. 農学部

(1) 農学部 of 教育目的と特徴	11-2
(2) 「教育の水準」 of 分析	11-3
分析項目Ⅰ 教育活動 of 状況	11-3
分析項目Ⅱ 教育成果 of 状況	11-11
【参考】データ分析集 指標一覧	11-14

（１）農学部教育目的と特徴

1. 教育目的・理念・目標

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念に掲げ、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保険、安全、教育等の諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により諸課題の解決を図る「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を目的として掲げている。教育に関わる中期目標として「高度化・複雑化する社会において主導的に活躍できる人材育成」をアドミッションポリシーとし、学士教育では「人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、障害に渡る自己実現力」を備えた人材の育成を目指している。岡山大学農学部はこの基本理念に基づき、「総合的な教育研究を行い、多様化する社会の要請に応えるとともに、幅広い基礎学力と応用展開能力を備えた人材を養成する」ことを目的としている（農学部規程第2条）。

農学は、人類の平和と生存に必要な総合科学であり、健康で豊かな生活を営むに足る安全・安心な「食」の安定供給と生産に要する資源の開発と確保を図り、人間生存環境の保全に関わる学問である。岡山大学農学部は、この農学の基本理念に基づき、「総合農業科学科」1学科制を基本として、4つのコース制教育（農芸化学コース・応用植物科学コース・応用動物科学コース・環境生態学コース）により、バイオサイエンス、フィールドサイエンス、エコソーシャルサイエンスを一体化した総合的な教育を目指している。特に、持続可能な開発目標（SDGs）を見据え、多様化した社会の要請に対応できる幅広い基礎学力と広い専門知識、高度な専門性と応用能力を備えた人材の育成を進めているのが特色である。本学部の教育使命は、学生・卒業生からの教育システムへのフィードバック意見も取り入れながら、常に教育システムのブラッシュアップに努めることで優れた人材の輩出を通して地域社会や国際社会に貢献することである。こうした岡山大学農学部教育目的と使命を念頭に、農学部ディプロマポリシーでは、以下の学士力の習得を目標に掲げ、学生が幅広い基礎学力と確かな専門知識、応用能力を習得できるように努めている。

- ・教養：人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につける。
- ・専門性：農学の専門的な学識と技術を身につけ、それを適切に応用する。
- ・情報力：農学的な知識と経験を蓄積し、効果的に情報発信する。
- ・行動力：全人類の生存と福祉に貢献する。
- ・自己実現力：農業の進歩と農学の発展に寄与する。

2. 教育の特徴

本学部の最大の特徴は、1986年から導入した「総合農業科学科」1学科制にあり、2004年には教育コース（以下「コース」という。）制を再編した。低学年では農学の幅広い学問分野を学び、年次進行に伴ってコースに分属し、専門性の高い知識を身に付ける教育体系である。さらに、本学部には、附属教育研究施設として、山陽圏フィールド科学センターが設置されている。農学部の入学定員は1学科120人、教員は63名（令和2年3月31日現在）であり、一学年あたり、教員1名が1.9名の学生の教育に携わっている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6411-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6411-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ （特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 6411-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 6411-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（該当なし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ディプロマポリシーの実現に向けた「学びの強化」を目的とした2016年度からの60分授業、4学期制への移行（従来は90分授業、前後期制）に伴って、この制度の利点を最大化するために、各科目の単位数・授業科目の再編、内容の大幅な改善を行った。〔3.1〕（別添資料 6411-i3-3）
- 60分授業、4学期制への移行の効果の検証、課題の抽出のために、授業制度に関する教員・学生アンケートを実施した。教育効果の向上には、実験科目などで学期跨りの必要制が指摘されたが、多くの教員、学生は制度の変更に対し前向きに対応していることが明らかになった。〔3.1〕（別添資料 6411-i3-4）

岡山大学農学部 教育活動の状況

- 社会からのニーズに対応して、医学部保健学科と連携して「生殖補助医療技術キャリア養成特別コース」を開設し、学生に胚培養士としての進路を提供するとともに、少子化対策に貢献している。このコース設置に対する学生および地域社会からの評価は極めて高い。[3.2] (別添資料 6411-i3-5)
- 専門的知識を学習した段階で、専門分野ごとに学ぶ高年次教養科目制度の導入に伴って、農学部生に対しては「日本農業論」を設定した。本科目は農水省、農政局派遣講師による各年度の農業・林業白書解説を含み、農業情勢の分析と農業政策の方向性を体系的に学ぶ科目である。[3.3] (別添資料 6411-i3-6～8)
- 2017年10月のグローバル・ディスカバリー・プログラム(GDP)の設置、学生受け入れに伴って、農学部教員による英語での専門講義科目を20科目を開設した。これらの英語教育科目には、グローバル人材の育成に資するため、一定の英語能力条件を満たした農学部生、GDP生のみならず、グローバル人材育成コース生、EPOK生も受け入れている。[3.2] (別添資料 6411-i3-9)

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 6411-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 6411-i4-2)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 6411-i4-3)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 6411-i4-4)
- ・ 指標番号5、9～10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年から授業内容へのアクティブラーニングの導入を推進するために、シラバスへのアクティブラーニング比率の記載、ピアレビューによる事例紹介を行った。半数以上の講義において、アクティブラーニング要素の導入が進んでいる。
[4.1] (別添資料 6411-i4-2) (再掲)
- 農学部ではフィールドでの多様な実践的実習として、「フィールド基礎実習」、「まきばの実習」、「農家体験実習」を実施し、多数の学生が受講している。卒業生アンケートで、実習教育の充実を評価する声は多かった。[4.1] (別添資料

6411-i4-5)

- 実践的学習プログラムとして、大学間連携を活用した多様な中国・四国地区大学連携フィールド演習を推進している。毎年 30-40 名の学生が他大学の実習を受講し、ほぼ同数の学生を他大学から受け入れている。[4.2] [4.8] (別添資料 6411-i4-6~7)
- 教務係による学生に対する揭示、ガイダンス科目での紹介を強化し、学生のインターンシップへの参加を促進するとともに、教務 FD 委員会で各学生の活動レポート内容を精査し、単位認定を行っている。毎年 10 件程度の実績がある。[4.2] (別添資料 6411-i4-8)
- 2016 年度より国際的な視野を涵養するために、グローバルな実践的学修プログラムとして、海外短期農業体験実習を 3 カ国で実施している。ほとんどの受講生から貴重な体験で有意義であったと好評を得ている。[4.2] (別添資料 6411-i4-9)
- 2016 年度に配分された教育改善経費を活用して農業実習でも活用できる屋内外 LAN システム、電子黒板、iPad (40 台) を整備し、情報通信技術(ICT)を活用した授業に利用している。[4.3]
- 教育目標を達成するための農学部教員構成は令和元年 5 月 1 日現在で合計 66 名(グローバル人材育成院、生殖補助医療教育研究センターから専任教員として参画している教員 4 名を含む。)であり、農学部 1-4 年生約 490 名に加えて、マッチングプログラムコース生、GDP 生の教育に対応している。[4.4] (別添資料 6411-i4-10)
- 学習指導における学修成果の可視化を目的に 2016 年度より全学生の成績の平均 GPA を算出し、成績表に明示している。[4.7] (別添資料 6411-i4-11)

＜必須記載項目 5 履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 6411-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 6411-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 6411-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 6411-i5-4)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

岡山大学農学部 教育活動の状況

- 大学院生をチューターとするアカデミック・アドバイザー・アシスタント (AAA) 制度により、学習に困難性を持つ学生（主に実業高校推薦入試による入学生の英語学習）を中心に期間中に 20 名以上の学生を支援している。[5.1]（別添資料 6411-i5-5）
- 学生の主体的な英語能力涵養を支援するために、期間中に英語検定料補助制度を運用し、毎年 10 名弱の学生が利用している。[5.1]（別添資料 6411-i5-6）
- 学生の主体的な学修を促すために、24 時間、自由に利用できる情報機器室 (PC50 台)、リフレッシュスペースを整備し、授業の効率向上、予復習の支援、レポート提出などに moodle の活用を図っている。[5.1]
- 教務 FD 委員会では年 2 回、学生の単位取得、成績状況を確認し、学習困難者の洗い出しを行い、各担任、指導教員に、学生面談、報告書の提出を依頼し、対応を確認している。[5.2]（別添資料 6411-i5-7）
- 就職している卒業生、大学キャリア・学生支援室、大学院関係者などによるキャリア・サポート説明会を 2 年生を対象に行い、学生にキャリアを意識した学修姿勢確立を支援している。[5.3]（別添資料 6411-i5-8）

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 6411-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 6411-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 6411-i6-3）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016 年から成績評価の厳格化、多角化について教員に周知し、シラバスへの記載を求めている。成績評価は最終試験を基礎としながらも、すべての講義について小テスト、出席を含む受講姿勢、レポートなどを組み合わせた総合評価を行っている。[6.1]（別添資料 6411-i4-2）（再掲）
- 成績評価における学修成果の明確化、可視化のために、GPA 制度を導入し、成績表には各科目の GPA 及び平均 GPA を記述している[6.2]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 6411-i7-1）

- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 6411-i7-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学生の卒業判定は教務FD委員会で卒業要件単位、到達学士力を確認の上、教授会で最終判定を行なっている。[7.1]
- 各コース毎に全教員が出席した卒業論文発表会を行い、評価の重要資料としている。発表会前に学生は卒業論文本体をコース主任に提出し、確認を受けるシステムとしている。[7.2]（別添資料 6411-i7-3）

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6411-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6411-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部では前期・後期一般入学に加えて、実業高校向け推薦入学A、普通高校向け推薦入学B、私費外国人留学生特別、社会人特別選抜制度の多様な入試制度を実施し、多様な学生の受け入れに努めている。[8.1、8.2]（別添資料 6411-i8-3）
- 志願者増加方策として、高校に対する出前授業および大学訪問をそれぞれ年間10回程度実施している。中学生に対しても公開講座、大学訪問を受け入れている。[8.1]（別添資料 6411-i8-4）
- 適正な入学者確保のために、岡山県内農業高校校長との意見交換会、受験産業との情報交換会を毎年開催し、生徒の志願状況の把握に努めている。[8.2]（別添資料 6411-i8-5）

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6411-iA-1）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国際関係授業、短期留学を修了要件とする岡山大学グローバル人材育成コースを農学部生は毎年平均5名程度が履修している。[A.1] (別添資料 6411-iA-2)
- 長期海外留学を行う EPOK、キャンパス・アジア制度を利用して、期間中に7名の農学部生が海外長期学習を行っている。[A.1] (別添資料 6411-iA-3)
- 2016年度より海外短期農業体験実習制度を開設し、ベトナム、タイ、グアムで実施して、期間中に合計40名以上の農学部生が参加している。また、国際実践型環境教育 GP 特別コースに参加し、期間中に15名以上の学生が参加している。[A.1] (別添資料 6411-iA-4)

＜選択記載項目B 地域連携による教育活動＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標として「高度化・複雑化する社会において主導的に活躍できる人材育成」をアドミッションポリシーとしており、農学を基盤とした地域活性化と地域再生に係わる教育を通して、高度化・複雑化する社会で活躍できる人材の育成を積極的に進めた。岡山大学は、岡山県、中四国農政局、JA 中央会の4者間で「農業とその関連分野に係わる産学官連携推進協議会」を発足させ、その活動の一環として「地域活性化システム論(2010年～)」「地域農業活性化実践論(2013年～)」を開講している。また、真庭市との連携でも「バイオマス産業体験講座(2011年～)」を開講している。以上の講義は、地域連携による農学部の特徴を活かした実践型教育活動として捉えられる。なお、「地域活性化システム論」及び「地域農業活性化実践論」については、大学教員以外の専門家(岡山県職員、農業従事者等)が成績評価にも加わる点と農学部以外の学生も多数受講している点が特徴的である。[B.1] (別添資料 6411-iB-1～4)
- 地域の教育活動支援のために高校および中学に対する出前授業および大学訪問をそれぞれ年間10回程度実施している。[B.1] (別添資料 6411-i8-4) (再掲)

＜選択記載項目C 教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

岡山大学農学部 教育活動の状況

- 講義の質保証・向上を目的として、毎年、ほとんどの科目について学生による授業評価アンケートを行い、教務FD委員会でその分析を行っている。[C.1] [C.2] (別添資料 6411-i3-4) (再掲)
- 全学で実施される教員研修、スタッフ研修に参加を促すとともに、ハラスメント防止やコンプライアンスに関する学部独自の教員研修会を毎年、企画、実施し、多数の教員が参加している。[C.1] (別添資料 6411-iC-1)
- 教員のキャリア開発促進のために期間中に3名の教員に対し長期海外派遣を行い、教育・研究力向上、キャリアアップにつながっている。[C.1] (別添資料 6411-iC-2)
- 教員の活動自己評価と学部長による評価コメント、それに対する各教員の対応コメントのやりとりを継続的に実施している。[C.1]
- 教員の講義技術改善を目的として、学生からの授業評価の高い教員を中心に、ピアレビューを期間中に20回以上実施している。各回ごとにアクティブラーニングの実施方法、学生とのコンタクト技術、英語での講義方法などのテーマを設定し、多数の教員が参加している。各回に検討会を行い、報告書作成を行っている。[C.1] (別添資料 6411-iC-3)
- 2020年より農学部教育評価委員会を設置し、外部評価委員も招いた教育システムの再点検を行っている。[C.2] (別添資料 6411-iC-4)

<選択記載項目D 技術者教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 生殖補助医療技術者養成に向けて、医学部保健学科との協力のもとに岡山大学生殖補助医療技術キャリア養成特別コースを設置し、胚培養士養成を進めている。毎年、1-4年生合わせて合計60-70名の学生が履修している。[D.1] (別添資料 6411-iD-1)

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所 (別添資料 6411-iE-1)
- ・ 指標番号2、4 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 東京、大阪、名古屋、岡山などの各地で生殖補助医療リカレントセミナーを開催し、期間中に400名を超える参加者に、最新情報の提供、技術指導を行っている。[E. 1: 別添資料 6411-iE-1~2]
- 社会人向けプログラムとして、フィールド科学センター公開講座を行い、期間中に100名以上の参加を得ている。[E. 1] (別添資料 6411-iE-3~4)
- 初等・中等教育との連携を目的として、ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へなどの小・中・高校生対象のセミナーを開催し、多数の参加者を得ている。[E. 1] (別添資料 6411-iE-5)
- リカレント教育の一環として、主として農業高校教員、高校理科教員を対象に教員免許状更新講習を毎年4講習を行っている。毎年の合計受講者は約100名にも上り、履修者からの評価は良好である。[E. 1] (別添資料 6411-iE-6)
- 毎年、地域の農業・行政関係者を招いた岡山大学農学部公開シンポジウムを開催しており、参加者のリカレント教育として機能している。[E. 1] (別添資料 6411-iB-3) (再掲)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

＜必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 6411-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 6411-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016 年から 2018 年にかけて、標準修業年限内卒業率は 87.4%から 94.5%に向上し、年平均は 90%を超えている。学部生修業年限×1.5 年内卒業率も 95%程度の高水準で推移している。[1.1]（別添資料 6411-ii1-1～2）（再掲）
- 2016 年から 2018 年にかけて農学部生の取得科目の平均点分布の 80 点未満の学生数割合は低下し、2019 年には 10%を下回っている。[1.1]（別添資料 6411-ii1-3）
- 学生の高校教員免許取得は農業と理科を合わせて 15 名、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格者は 150 名超、実験動物一級技術者受験資格は 36 名、生殖補助医療キャリア養成コースの修了者は 14 名に達している。[1.2]（別添資料 6411-ii1-4）
- 農学生グローバル人材育成特別コースの修了者は 6 名、英語副専攻修了者も 4 名ある。[1.2]（別添資料 6411-ii1-5）
- 学生の受賞としては、ヤンマー学生懸賞論文で 2016 年と 2018 年に学部生 2 名が「よそ者が“ありのまま”を魅せる島おこし～しまなみのグリーン・ツーリズムを通して～」、「建設業の農業参入企業における経営成長のプロセス—株式会社アイファームを例に一」との論文で優秀賞を受賞した。また、2019 年には、「地域農業における都市部農業高校の新たな可能性」の論文で特別優秀賞に学部生 1 名、「農業ビジネスにおけるマーケティング戦略～岡山県の実例を事例に～」の論文で優秀賞に学部生 1 名が受賞した。[1.2]

＜必須記載項目 2 就職、進学＞

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 期間中の農学部生の大学院進学率は 45%近くになっており、学部での勉学、卒

岡山大学農学部 教育成果の状況

業論文研究を基礎として、学生の更なる研究、スキルアップへの意欲は高い。先進基礎科学特別コース履修を活用して、学部時に大学院授業を先取りする者も増えつつある。進学者の大部分は本学の大学院環境生命科学研究科へ進学しているが、キャリアアップを目指して他大学への進学者もある。[2.1] (別添資料 6411-ii2-1)

- 農学部卒業生就職者の内、約 30%が農業職関連の地方公務員上級職や国家公務員一般職に進んでおり、地域に貢献している。食品・化学産業を中心とする製造業に約 20%が就職しているが、農学の幅広さを反映して、銀行、サービス、教育関係に進む者も多い。[2.1] (別添資料 6411-ii2-2～4)
- 卒業生の中では就農や農協勤務を通じて、地域農業のリーダーとして活躍している者、農業高校で教師として活躍している者もいる。[2.1] (別添資料 6411-ii2-3) (再掲)
- 生殖補助医療キャリア養成コース修了者 14 名の内、半数は胚培養士として医療クリニックなどで不妊治療の一翼を担っている。[2.1] (別添資料 6411-ii2-4) (再掲) (別添資料 6411-ii2-5)
- 岡山大学独自の学修成果認定制度である高度実践人の農学部生の認定数は 2017、2018 年には 17 名に達している。[2.2] (別添資料 6411-ii2-6)

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6411-iiA-1 : 卒業時学生アンケート結果)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業時の学生アンケートにおいて「教育についての全体的な満足度」では 2016 年から 2018 年度卒業生まで「非常に満足している」との評価が年々増え、2018 年度では 94%の学生が「やや満足している」以上の肯定的評価をしている。個々の項目では、専門講義、実験、卒業論文、ゼミへの満足度が高く、「やや良かった」以上の評価が 80%程度を占めている。(別添資料 6411-iiA-1 : 卒業時学生アンケート結果) (再掲)

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6411-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 就職先アンケートでは卒業生の国際感覚や外国語能力については課題もあるが、論理的思考力、情報収集・分析力・自己成長追及姿勢については80%以上の肯定的評価が得られている。 [C.1] (別添資料 6411-iiC-1) (再掲)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。